

生徒会執行部 (平成20年度～27年度)



平成21年度



平成20年度



平成23年度



平成22年度



平成25年度



平成24年度



平成27年度



平成26年度

思い出 — 寄稿 —



浄法寺校での思い出

平成二十五年度卒業生代表

館山 凌



浄法寺校では、少ない人数でしたがとても活気があり、とても楽しい高校生活を送ることができました。私たち新入生四名の入学式のため、入学式が一週間ほど延期になったことも強く心に残っている思い出です。

部活動では、バスケットボール部に入学しました。少ない人数ながらも高校総体に向けて毎日練習に励み、三年間大会に出場することができました。熱心な先生のご指導のもと多くの高校と練習試合を重ね、交流してきました。ご指導していただいた先生方にも感謝しています。辛い時が何度もありましたが、今振り返ると仲間との楽しい思い出を創ることができました。

文化祭では、浄法寺祭で浄法寺太鼓を披露

しました。初めて太鼓を叩く人がいて、苦戦していました。先輩方が的確にリードしてくださり、そのおかげで本番では、大成功を収めることができました。ご指導いただいた地域の方々に感謝します。

体育祭では、人数が少ないので学年の枠を超えた合同チームで一生涯懸命に球技大会をしました。本校初の集団行動演技にも挑戦しました。伊藤先生のご指導のもと様々なフォーメーションを全員が寸分の狂いもなく組み立てることはとても難しいことでした。しかし、誰一人諦めることなく、練習成果を体育祭当日に披露することができました。保護者の方々が作ってくださった豚汁やおにぎりをいただき、とてもおいしくて疲れが吹き飛びました。感謝しています。

九月の台風は、この地域にも大きな被害をもたらしました。このため、全校生徒で被害に遭われた家々に出向き、後片付けの手伝いをさせてもらいました。また、毎年冬には、お年寄りの家の雪かきを行ってきました。感謝の言葉をもらうたび、とてもうれしかったです。

浄法寺校での三年間、未熟だった私を暖かくサポートしてくださった先生方に心から感謝しています。時には厳しく、時には優しく接してくださり、ありがとうございました。

浄法寺校で過ごしてきた三年間には、文章では書ききれないほどたくさんの思い出がありました。そんな浄法寺校がなくなるのとはとても寂しいですが、浄法寺校で学んだことや

思い出はしっかりと私たちの胸に刻まれています。これからは社会人として、浄法寺校で学んだことを生かして社会に貢献していきたいと思えます。本当にありがとうございました。



浄法寺校での思い出

平成二十六年卒業生代表

駒ヶ嶺 真莉絵



まず、私が浄法寺校がなくなってしまうという話を最初に耳にしたのが中学校の時でした。どこの高校を受験しようか迷っていた時に、第一志望であった浄法寺校が募集をせず、閉校するということを聞き、私はとても困りました。しかし、結果として受験することができ、合格しました。

浄法寺校に入ってみると、人数が少なく、中学校の生徒数とのギャップに驚きました。私たちのクラスは十人。正直、やっていたの心配でした。でも、少ない人数だからこそ大人数ではできないことができましたし、少ない人数だからこそ苦勞もありました。一年生の時は、十人中私を含めて六人が小学校からの同級生で、あとの四人は他校からの人たちでした。初めは、同じ中学校の人た

ち同士で集まっていたのが、徐々に一緒になっていくのを見たとき、クラスがまとまってきた証拠なんだなと思いました。それから、高校で初めての体育祭、文化祭等さまざまな行事がありました。中でも、体育祭では、クラスの団結力が試される種目ばかりでもとても楽しくできたのが今でも強く印象に残っています。他にも部活動では、中学校からやっていた卓球をやりたくて、高校でも卓球部に入部しました。人数が少なくて、二つ上の先輩が引退してからは、私が部長になり、部員を引張ってきました。とても楽しい部活動でした。

委員会では、保健美化委員会、生徒会執行部に所属していました。少人数ならではの掛け持ちでした。保健美化委員会では、身体測定補助、モップ交換、ポスター作り等、さまざまな活動をしてきました。また、生徒会執行部では、一年生から生徒会副会長として会長のサポートをしながら積極的に活動してきました。二年生の後期からは先生からの推薦もあり、生徒会長として全校を引っ張ってきました。とても大変で忙しい委員会でしたが、協力し合いながら頑張ってきました。

二年生になると、修学旅行が待っていました。私たちは四泊五日で京都、大阪、奈良へ行きました。自主研修では京都のお寺を各班で見に行きました。他にも京都タワーや清水寺等に行きましたが、私の中ではUSJが一番楽しかったです。体育祭では初の総合優勝をすることができ、とても嬉しく思いました。

三年生になると、受験という大きな壁が待っ

ていました。しかし、全員が無事合格し、安心しました。体育祭、文化祭等高校行事を覚えていくにつれ、この高校ともお別れしなければいけないと寂しい思いになることも多々ありました。

浄法寺校で過ごした三年間は、私にとっての宝物です。閉校してしまうのはとても寂しいですが、私たちの心の中で浄法寺校は永遠に輝き続けるでしょう。

最後に、岩手県立福岡高等学校浄法寺校へ。六十八年間ありがとうございました。



最後の卒業生として

平成二十七年卒業生代表

田 口 拓 人



岩手県立福岡高等学校浄法寺校は男子七名、女子二名、計九名がこの春最後の卒業生となります。浄法寺校で過ごした三年間は決して楽な三年間ではありませんでしたが、退屈しない楽しい三年間でした。

入学したとき、三年生は四名、二年生は七名と少ない人数でしたが、ユーモアのある素敵な先輩方に迎えていただきました。一年生のメンバーは小学校・中学校でも同じクラスだったので、互いのことを理解していましたが入学後の生活でははじめ緊張していましたが優しい先輩たちのおかげで学校生活にもすぐ慣れることができました。

いろいろな行事の思い出がありますが、特に大変だった行事は、浄法寺祭りで披露した「浄法寺太鼓」です。練習は毎日五、六時間

目に行いました。太鼓は本番まで借りることができないため、毎日の練習で使うのはトラウマのタイヤでした。タイヤはでこぼこして叩きにくく太鼓のように音も響きません。気付けば手にマメができて、腕を上げることができなくなっていました。一年生はリズムや曲を覚えるために練習を頑張りました。とても辛い練習でしたが、ここで諦めずに練習を頑張ったおかげで本番での演奏は大成功でした。

三年生の卒業が近づくにつれて、私たち在校生は後輩を迎え入れる準備をしていました。生徒募集停止。浄法寺校の閉校が決まりました。そのことを聞いた私は、とても寂しく残念な気持ちでいっぱいでした。そして、後輩ができないまま二年生へ進級となりました。全校人数は前年度よりもさらに減ったけれど、みんなのできる行事を増やし、何事にも全力でチャレンジしてきました。

そして、私たちは三年生に進級しました。長い学校生活も残りあと一年、先輩も後輩もいなくなり、学校が静かになったような気がしました。人数が減ったことで一番困ったのは学校行事です。球技大会や、毎年恒例の浄法寺太鼓には先生方にも参加してもらい、何とか行事を減らさずにすみました。

三年生に進級して一番楽しかった行事は「稲庭岳登山」です。寂しくなった学校を盛り上げ、私たちに楽しい思い出を残そうと、先生方が企画してくれたことが嬉しかったです。稲庭岳は小学校のときから登り慣れた山でしたが、

斜面が急で登るのがとても大変でした。下山のときには激しい雨が降ってきて、みんなびしょ濡れになったことも今では良い思い出です。登山が終わった後は学校でバーベキューをしました。その日食べたお肉の味は忘れません。浄法寺校は私たち男子七名、女子二名の卒業生を送り出し、長年の歴史を閉じます。私たちの卒業式が、浄法寺校最後の卒業式になります。ここで過ごした日々は絶対に忘れません。そして、浄法寺校の生徒であったことの誇りと思い出を胸に、次の道へ進んでいきたいと思えます。

